

# 紐風人物相関図

3人の女性とそれを取り巻く人々の物語。北九州の街を舞台に、想いが交差する。



女  
宮村耳々  
今、女性は月である。

## ボルダリング仲間

### 古賀邸



松尾林太郎  
寺田剛史  
淋しいなあ。僕の愛梨が大勢の目に晒されるのは。

夫婦



松尾愛梨  
飛世早哉香  
医者のあなたと結婚したんじゃないよ。



古賀久代  
内山ナオミ  
私は、寂しいんです。しょうか。

好意



田中友也  
三田村啓示  
鹿児島本線を通る813系。三戸岡鋭治の傑作です。

久代が勤める店の客



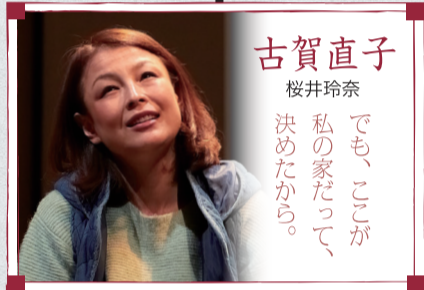
白石利明  
村上差斗志  
俺たち幸せな方やんか。

夫婦



白石恵  
大野朱美  
何で二人でおるんやろ。

義理の姉妹



古賀直子  
桜井玲奈  
でも、ここが私の家だから。決めたから。

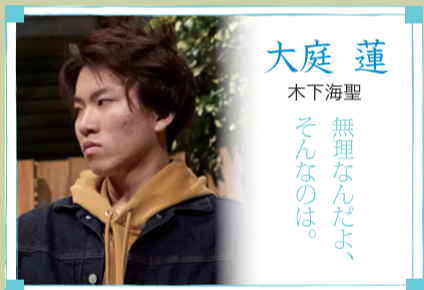
友人



小川育子  
岸部孝子  
ささなかは、ささなかは、咲きたいやん。

母娘

## 大学・軽音楽部



大庭蓮  
木下海聖  
無理なんだよ、そんなのは。

恋人



古賀あかね  
町田名海子  
さよならだよ。友だちになる。

好意



山崎七海  
江崎萌葉  
じゃあ、一緒にいてください。

撮影:重松美佐



**キ** 再集結したときに少しでも成長した自分ではない、この2年そんな思いで活動してきました。社会が大きく変容した中で、変わったこと、変わらないもの、しっかりと表現できるよう頑張ります。

**ヤ** あれから2年、髪を伸ばし続けている。毎朝束ねる度に「女」を思い出して、それは髪が長いからではない。あらゆる人の「そのどちらでもない」を再度考えていきたい。

**ウ** 町田名海子(御遠集団ちいさタルミ/ゲキキ/劇団朝陽)

**ト** 公演を終え新千歳空港にいた時涙が止まりませんでした。感情がぐちゃぐちゃで私の中でどけていません。また作品と向き合える機会を買ったんだと歩踏み出します。経に劇場で踏み出してくれたら嬉しいです。

**コ** 飛世早哉香 (In the Box, Orange)

**メ** 公演初日から約2年が経ち、世の中も私も変わりました。また北九州の地でお芝居が出来ること。同じメンバーでの再演出来ること。多くの方の想いと感謝を胸に舞台に立ちます。

**ン** コロナで中止になったからこの再演はとても頑張るみたいなのは二重の意味で、人は集まる心がかけたら再演の価値がない。少しでもなるように逃げたら終わる。そんなことを考えながら始めたと思います。

**ト** 寺田剛史(飛ぶ劇場)

公演を終え新千歳空港にいた時涙が止まりませんでした。感情がぐちゃぐちゃで私の中でどけていません。また作品と向き合える機会を買ったんだと歩踏み出します。経に劇場で踏み出してくれたら嬉しいです。

**ン** 「絶対、待っててね」を果たせる！この作品と、また向き合える事が嬉しい。不自由さの中で、気づいたものや深く変わった思い。2年経て、どんな風が吹いたか感じて頂けたらと思う。

**ト** 桜井玲奈

まさか本当に再演をやらせてもらえるとは...2年が経ち、再演をやらせてもらえるという至極ありがたい機会を、大切にそして真摯に取り組み、今の自分を出せたらな。

**ト** 木下海聖(有門正太郎プレゼンツ)

公演中止から2年経つて、世界も自分もみんなも劇場も脚本も、2年分重くなったのでしよう。きっと違う景色が見えて違う風が吹く。演劇を選ぶことも重くなりました。それでも、折りと願いを込めて。

**ト** 大野朱美

当たり前は当たり前ではないことを痛感した2年前。再演の日を願って丁寧に日々を紡いできました。作品を通して、新たな時代へ心地良い風が吹きますように。

**ト** 江崎萌葉

演劇どころではない世界にもやがて慣れた。人は慣れる。この作品の中の人々も生きづらさを慣れの中に押し込めていた。今回の再演でそんな彼女達の感情にも寄り添えればと思う。

**ト** 内山ナオミ(飛ぶ劇場)



# 紐風通信

## いつか爽やかな風が吹く日まで 現代女性の生き方を問うドラマ

2020年2月、コロナ禍の影響を受け初日1回限りの上演となった北九州芸術劇場クリエイション・シリーズ「まっわる紐、ほどけば風」。関西を拠点に活動する劇団太陽族主宰の岩崎正裕を作・演出に迎え、劇場新シリーズの第1弾として制作した作品が、延期公演として小劇場に帰ってきます。前回公演前の記者会見でも岩崎さんが語っていたように、本作は、現代女性の生き方に焦点を当てた物語。

「戯曲を書きながら女性に心情を重ねてみると、男性がつくったこの社会の矛盾点みたいなものが沢山見えてくるんです。日本でも世界でも、男性優位であるという事は解消されないといけないし、ただそれを場面として声高に主張するのはなく、苦勞に直面している女性たちの場面を見た時に、観客それぞれが思いを馳せて今後の人生を開拓して欲しい、という物語なのかなと思います。タイトルは、北九州を代表する俳人・杉田久女の俳句「花衣ぬぐやまつはる紐いろく」に着想を得ていますが、私は「まっわる紐」を女性にまつわる男性がつくった社会の数々のしがらみと捉えてみました。それを物語で解いていく事によってそれぞれの登場人物に風が吹くんじやないかな、という想いを込めています」

キャストの顔ぶれをそのままに、2年の時を経て再び紡がれるドラマにご期待ください。



「性別も地域も問わず  
もし翻訳されれば  
世界にも通じる  
物語だと思っています」

作・演出 岩崎正裕



▲2020年記者会見

1回限りの上演となった公演の舞台写真▶



撮影:重松英佐

北九州芸術劇場クリエイション・シリーズ  
「まっわる紐、ほどけば風」  
特別レポート

本編にまつわる  
2つのリーディング作品!

「まるまる糸」  
作・演出 守田慎之介

「どけどけ虫」  
作・演出 泊篤志

2022年1月  
劇場YouTubeにて動画公開決定!



▲事前稽古(2019年)  
◀稽古(2020年)

▼ものがたり  
一軒家に義姉と姪の3人で暮らす自身の久代、夫婦で不動産会社に勤め不妊治療に悩む恵、医者者の夫と暮らしながら自身の生き方を模索する愛梨。ボルダリングジムで出会った3人は次第に意気投合する。それぞれの環境で生活にどこか孤独や不自由さを感じ、まるで見えない紐にとらわれているかのような彼女たち。いつか爽やかな風が吹く日まで、家族と、時に自分自身と向き合いながら現代を生きる女性たちと、それを取り巻く人たちの物語。

クリエイション・シリーズとは

北九州芸術劇場とアーティストが2年間タッグを組み、地域の人々や表現者との交流など時間をかけて「地域」を知る1年目を経て、2年目に劇場オリジナル作品を制作する劇場創造作品の新シリーズ。第1弾として制作した「まっわる紐、ほどけば風」では、社会で起きている様々な出来事をモチーフに人々の内面を照射する作品に定評がある劇団太陽族の岩崎正裕が、現代を生きる女性たちとそれを取り巻く人々のドラマを全編北九州弁で描き出します。出演には多数のオーディション参加者の中から選ばれた10名と関西からの2名のゲストキャスト、計12名が集いました。

## 紐風創作MAP

作品創作にあたり、作・演出の岩崎さんと北九州のさまざまな地を巡って物語の種を育みました。実際に地名として作中に登場する場所も!ぜひ見つけてみてくださいね。



**高塔山**  
若松駅より徒歩5分、火野葦平旧居「河伯洞」を訪ね北九州の文学に触れたのち、夜景も人気の高塔山から街並みを眺めました。



**藍島**

猫島としても有名な藍島フェリーで上陸。ひっそり佇む神社、漁船、森を抜けて広がる砂浜...街並みを離れたのどかな風景から北九州の新しい一面を知りました。



**櫓山荘**

小倉北区の広寿山福聚寺や圓通寺を歩き、大正～昭和に文化人たちに親しまれた櫓山荘跡地へ。公園から見える無数の煙突群に、この街が積み重ねてきた歴史を感じました。



**直方市石炭記念館**

蒸気機関車と日本最大級の石炭塊に圧倒。当時炭鉱で働いていた人々とそれを支えた女性たちの暮らしを知る貴重な体験となりました。



**八幡製鉄所**

工業で栄えた歴史が根強い北九州。八幡製鉄所で高炉や熱延工場を見学し、飛躍的に進歩してきた北九州とそこで働く人々へ思いを馳せました。



**英彦山**

頂上まで2時間をかけ登頂。道中で声を聞いたホトトギスは、作品の重要なモチーフとなる杉田久女の俳句にも登場します。

チケット  
好評発売中

# 北九州芸術劇場クリエイション・シリーズ まっわる紐、ほどけば風

作・演出 岩崎正裕 (劇団太陽族)



出演: 内山ナオミ、江崎萌葉、大野朱美、木下海聖、桜井玲奈、寺田剛史  
飛世早哉香、町田名海子、宮村耳々、村上差斗志 / 岸部孝子、三田村啓示

会場: 北九州芸術劇場 小劇場

一般 3,000円  
ユース 2,500円(24歳以下、要身分証提示)  
高校生の[的]チケット 1,000円(枚数限定、劇場窓口・電話・前売のみ取扱、要学生証提示)  
\*全席指定 \*当日500円増 \*未就学児入場不可(託児あり・要事前予約)

	2/17(木)	18(金)	19(土)	20(日)
13:30	●	●	●	●
18:00	●	●	●	●
19:00	●	●	●	●

主催 / (公財)北九州市芸術文化振興財団 共催 / 北九州市  
助成 / 文化庁文化芸術振興費補助金(劇場・音楽堂等機能強化推進事業) | 独立行政法人日本芸術文化振興会  
企画・製作 / 北九州芸術劇場



©トミタユキコ